

春の雨静かに湖を濡らしけり
 満開の花のしじまを畏れけり
 湯けむりの匂ひ立つ街春しぐれ
 花の宿鳴門の鯛の兜焼
 くつきりと豆腐の布目四月来る
 みづうみのひたすらたひら朝桜
 青き踏む製材の音風にのり
 大川の吹き上ぐる風猫柳
 本丸の跡さへづりに包まれし
 薄氷をつつけば雲の動き出し
 あつ桜ひとりと言ひて初桜
 あの土手の土筆ですよと供へけり
 桜貝大海原の匂ひせり
 内裏雛内緒話も京言葉
 夜桜のうしろの闇を畏れけり

池 辺 眺
 後 藤 邦 代
 平 木 郁 子
 藤 田 彰
 福 井 史 郎
 安 田 青 葉
 八 島 伸 子
 先 崎 クニ子
 佐 藤 千 珠
 増 山 き み
 平 間 裕 子
 神 谷 孝 子
 佐 藤 正 子
 山 本 裕 美
 富 田 はるみ

さくらさくら大和ことは口遊び

根を長くひきぬかれけり春の草

末黒野に燃えきれぬものありにけり

日脚伸ぶ全面ガラス張りのカフェ

梅ふふむ城下の端に住み旧りて

土擡ぐ力は丸し路の臺

春星や火振り神事の火の粉浴び

東となり向かつてきたり花吹雪

犬ふぐり土手いつぱいにまたたけり

しんしんと雪乗せ一軒づつ灯り

海風や三浦大根下太り

蝶生れ開きしままの広辞苑

黒黒と鮭の子群れて春の雪

大木の辛夷満開龍太の忌

はまなすの赤き芽吹きも棘の中

伊藤 美津子

岡崎 桂子

毛利 きぬゑ

中野 弘子

藤田 厚子

澤 畠 照子

平木 郁子

斧田 綾子

遠藤 カオル

栗原 梅子

永山 幸子

武藤 貞一

増山 きみ

赤松 良恵

森 朝子